

川口市美術館建設基本計画

川口市美術館建設基本構想・基本計画審議会

令和2年3月

目次

第1章 コンセプトと事業活動	1
1.美術館のコンセプト	1
2.三つのエリアのコンセプトと事業活動	2
(1) アートエリア	2
ア アートエリアのコンセプト ～川口の美～	2
イ アートエリアの事業活動	3
(2) ものづくりエリア	7
ア ものづくりエリアのコンセプト	7
イ ものづくりエリアの事業活動	8
(3) イベントエリア	9
ア イベントエリアのコンセプト	9
イ イベントエリアの事業活動	10
3.三つのエリアの事業概念図	11
4.市内の文化施設、地域との連携事業	12
(1) 市内の文化施設との連携	12
(2) 市内の企業や団体・地域との連携	13
(3) 市民との連携	13
(4) 市外の美術館や学校・教育機関との連携	14
5.広報活動	15
6.開館時間・休館日	15

第2章 施設計画	16
1.施設全体の仕様・規模	16
(1) 施設全体のコンセプト	16
(2) 施設全体の構成	19
2.各エリアの施設構成	20
(1) アートエリア	20
(2) ものづくりエリア	24
(3) イベントエリア	26
3.展示動線シーケンス	27
4.動線計画	28
5.必要諸室面積一覧	29
第3章 建設用地の検討	30
1.建設用地及び施設形態の検討	30
2.建設用地	31
3.施設形態	34
第4章 管理運営	36
1.管理運営体制	36
2.各部門に必要な人材	37
3.検討項目	39
第5章 今後のスケジュール	40

第1章 コンセプトと事業活動

1. 美術館のコンセプト

「川口市美術館建設基本構想」により設定された美術館のコンセプトを実現するために、美術館には下記の三つのエリアを設けます。

美術館のコンセプト

市民が集い交流し、創造力や文化、歴史、産業を育む
全く新しい文化芸術の創造・発信拠点



美術館の三つのエリア

アートエリア ～美術館機能～

寄贈寄託作品を適切な環境下で保存管理し、多角的な調査研究を行い、作品が製作・収集された時代背景と共にわかりやすく展示公開する他、川口市に所縁のあるアーティストの作品展示を行います。

ものづくりエリア ～産業とアートのコーディネート機能～

川口の歴史あるものづくり産業とアートの作り手とをマッチングし、地域活性化につなげる新たな経済活動を創出します。

イベントエリア ～新しい表現に対応した展示ホール～

映像や空間そのものを表現とする新しいアートに対応した多目的な展示ホールを活用し、コンベンション機能やエンターテインメント性をもった様々な活動を通して、市民の交流の場を提供します。

2.三つのエリアのコンセプトと事業活動

(1) アートエリア

ア 「アートエリア」のコンセプト ～川口の美～

100万人を超えともいわれる人口規模を誇った江戸は、世界最大の消費地でもありました。高まり続ける日常物資の需要に応えるべく、川口では舟運を利用した江戸向けの商品の開発、生産や流通が盛んになりました。この頃から、川口の代名詞ともなっている鋳物工業や植木産業などが発展しはじめ、「ものづくりのまち」「職人のまち」としてのその礎が築かれました。

江戸の消費は川口に大きな富をもたらしました。その富は川口に暮らす人々にゆとりと心豊かな生活をもたらしたばかりでなく、芸術作品のコレクターを生み、様々な美術品が川口に集まってきました。

しかし、これら貴重なコレクションは世代が変わる度に少しずつ散逸し、いずれは無くなってしまいます。市には適切な管理・保存・展示を行う施設がないために、寄贈を受けられない状況が続いています。

本市では、これらを散逸させないためにも寄贈を受け入れる体制＝「収蔵施設」「展示施設」が必要になっているのです。

歴史は絶え間なく進んでいきます。その歴史に失われてしまう繊細なもの、すなわち、本市及び本市周辺地域固有の風土や歴史、そこで培われた産業や文化こそが「川口の美」であると定義し、寄贈された市民共有の財産を守り、伝える「アート」エリアを計画します。

イ アートエリアの事業活動

【収集保存】

市が所蔵する作品、新たな収集作品を安全な環境の下で適切な保存管理を行い、寄贈寄託の受け皿の役割を担います。

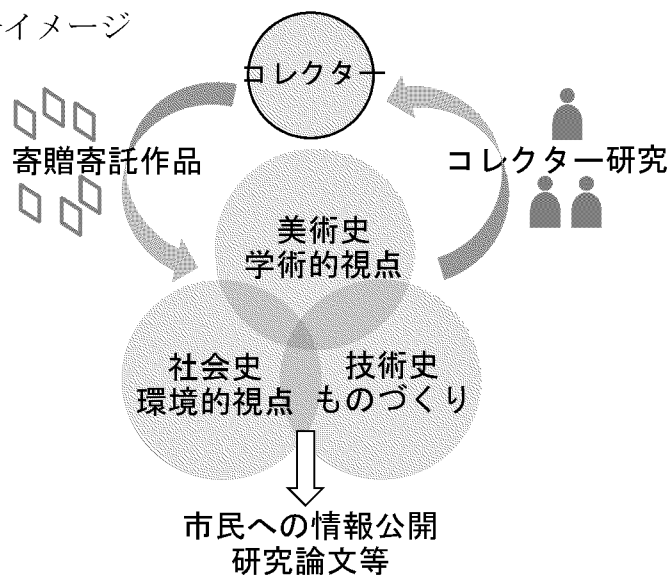
コレクションの拡充を積極的に行うとともに、収集の方向性は寄贈寄託を中心に分野のバランスを考慮し、川口らしい収集方針、コレクションポリシーの策定を目指します。また、修復の必要性を判断するスタッフを配置し、貴重な作品の長期的な保存管理に配慮します。

【調査研究】

寄贈寄託作品、川口の美術界、技術、ものづくり文化等を美術史、技術史、社会史など様々な視点から調査、研究を行います。同時に、コレクターの研究を行うことで、川口の文化芸術資産の価値を高め、後世に伝えることを目的とします。

国内外の美術動向や展覧会、第一線のアーティストなどに関する情報収集及び研究を行い、企画展事業の充実を図ります。調査研究の成果は展覧会企画への反映、紀要等の定期刊行物、ホームページ、SNS、研究論文などを通じて、広く発信することを検討します。他の美術館や研究機関との研究成果の共有、連携も積極的に取り組んでいきます。

■調査・研究方針イメージ



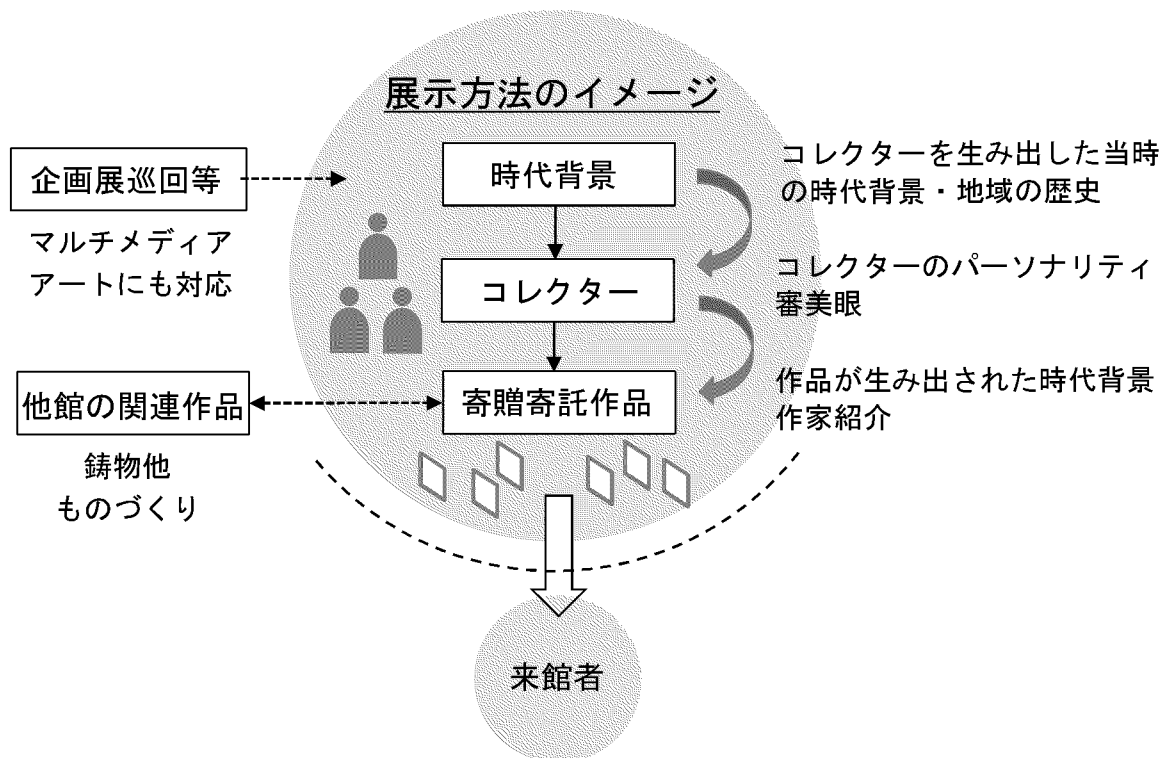
【展示公開】

寄贈寄託作品が制作された時代背景、コレクター及びコレクションの詳細と背景、市に収蔵された経緯などをわかりやすく紹介し、地域性を重視した展示を試みます。寄贈寄託作品全般を交互に展示します。

他の美術館収蔵の関連作品などと連携した展覧会を検討し、作品の魅力を最大限引き出す展示方法を検討していきます。その他、川口のものづくりをテーマとした展覧会や、川口所縁のアーティスト展、他館との共同主催企画展、コレクション巡回展などを行います。

映像技術を取り入れたデジタルコンテンツによる鑑賞補助ツールを活用した展示方法を検討します。

■展示デザインポリシー



【教育普及～アトリアとの連携～】

アートギャラリー・アトリアをより専門性の高い教育普及の施設として活かし、美術館との事業の分担を明確化します。アトリアでは、身近な美術への入門場所として気軽にアートと出会える事業を行います。

一方、美術館では、高度な展示設備のもとで作品を最適な環境で鑑賞することができ、より深い鑑賞力を養うことができます。最新の鑑賞補助ツールを活用した専門的な美術教育も可能となります。学習とアート鑑賞の境界を取り除くボーダレスな事業の可能性についても検討を行っていきます。

また、美術館とアトリアの合同事業として共通チケットの発行や、両館を結ぶ動線の街並アートデザインなどの整備も検討します。

■主に美術館で行う教育普及活動例

- 作品を理解し親しめるようにするわかりやすい作品解説
(鑑賞補助ツールの教育活用、学芸員によるギャラリートーク 等)
- 専門家を講師に招いた展示ホール活用イベント
(学芸員や作家、コレクターによる講演会やセミナー 等)
- 学校・教育機関との連携による、生徒や教員のための専門プログラム
(社会科見学、教員セミナー、学生インターンシップ 等)
- 川口所縁のアートやものづくりへの理解を深める機会
(リファレンスコーナーの映像デジタルコンテンツによる
所蔵作品やものづくりアーティストや市内施設の情報提供 等)

■主にアトリアで行う教育普及活動（基本構想から）

- 展示公開している作品への理解を深める美術講座
(講演会、鑑賞講座 等)
- 市民の創作活動への支援
(創作体験、ワークショップ 等)
- 創作工程を見学できる機会
(公開制作、アーティストインレジデンス 等)
- 専門的技術を学ぶ機会
(実技講座、技術指導 等)
- アートを創造・発信する人材育成
(ボランティア、アートコミュニケーター 等)
- 学校・教育機関との連携による、児童・生徒の鑑賞体験や創作体験
(作品鑑賞教室、移動美術館 等)

(2) ものづくりエリア

ア ものづくりエリアのコンセプト

江戸時代よりものづくりが盛んな川口は、多くの企業と職人を生み隆盛を極め、今もなお、質の高い市産品を生み出し続けています。

ものづくりによる本市の隆盛は、美術品コレクターとともに多くのアーティストも生み出しましたが、産業とアートは直接的交わることはなく、それぞれが独立しています。

新しい美術館では、これらものづくり産業とアーティストをつなぎ、新たな価値（商品・作品）を生み出すための交流や共同制作などを企画、推進します。

具体的には、二つの役割が考えられます。

一つは、新たな商品開発に際し、アートの視点を加えることで商品の付加価値を高めることを目指します。一例を挙げれば、鑄造技術、木型技術とデザイン性を融合した家具（インダストリアルファニチャー）などです。また、従来の商品やサービスのPR方法にアートの視点を加えることで訴求性を高める効果も考えられます。

二つ目は、アートもまた市産品です。市内アーティストが生み出す作品をホテル、マンション、店舗、事務所などに働きかけることで、アートで生計を立てられるアーティストを増やすことです。

専門のコーディネーターを置き、産業とアート双方の活性化を目指して「ものづくり」エリアを計画します。

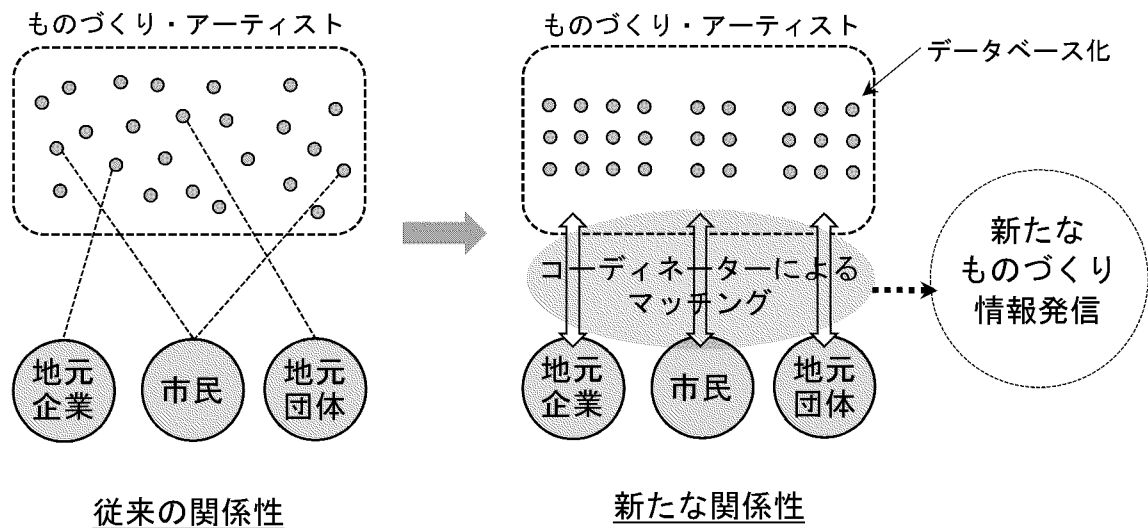
イ ものづくりエリアの事業活動

【創造支援】

市内産業とものづくりアーティストのコラボレーションによるデザイン性を高めた製品開発、インダストリアルデザイン・アート等の提案や、販路開拓を行い、アートによる地域経済の活性化に繋がります。

専門の産業コーディネーターが常駐し、川口所縁のアーティストや作家、ものづくりの匠の情報の収集活動を行い、データベースを作成し、市民や企業とのマッチングを敏速に行い、ものづくりのプロジェクトにつなげます。

■ものづくりアーティストと市民や地元企業などの関係性（イメージ）



【情報発信】

ものづくりアーティストや市内産業の情報はライブラリーとして公開します。また、開発された製品は、インターネット、SNS等を使い積極的に市内外に発信・PRしていきます。

また、展示作品に関連するグッズ（収蔵品の図録、書籍、ポスター、絵葉書、文房具、Tシャツ等）の他、新たに開発されたものづくりアーティストとのオリジナルコラボレーショングッズ等の販売を行います。

(3) イベントエリア

ア 「イベントエリア」のコンセプト

アートの表現方法として、メディアアートなど映像を使ったアートが世界的に主流になりつつあります。海外のアートフェアなどでも、メディアアート系のアーティストを紹介するブースが数多くあります。しかし、国内の美術館で、これらメディアアートの規模感、表現方法に対応できる美術館はまだ少数です。

映像表現とともに、大きなオブジェの展示、空間全体を使ったインスタレーションなど、様々な表現方法に対応した展示室を作ることは、新しい美術施設としては必須です。

しかし、常にこれらアート作品が展示されている状況ではありません。

「イベント」エリアでは、メディアアートへの対応、インスタレーション展示のほか、映画、演劇、音楽コンサート、コンベンション会場、パーティ会場など、本市に不足している施設を補完できる多目的なエリアとして計画します。

イ イベントエリアの事業活動

【交流】

マルチメディアアートやインスタレーションなど、映像や空間そのものを表現とする新しいアートに対応した「展示ホール」事業活動を行います。展示ホールでは、アート作品の展示だけでなく、市民や企業が様々なイベントを行うことができる多目的な事業を展開します。市民が集まり、交流するエンターテインメント性のある場の提供です。

展示室としての利用時にはアートエリアと連携し、「常設展示」「企画展示」という従来の枠組みを超えた活用を試みます。所蔵作品の展示の他、他館との共同主催企画展、コレクション巡回展、レセプションパーティーや、展覧会と連携した演劇やコンサート等のアートイベントを行います。

展示利用のない時は、広く市民に貸し出しを行います。コンベンション会場、パーティー会場などに活用します。

通常時は作品が飾られた憩い・集いのスペースとして公開します。

■展示ホールの活用事例

・展示活用

→展示室として使用。マルチメディアアート、インスタレーション
プロジェクションマッピング等の映像アートにも対応

・展覧会連携活用

→レセプションパーティー、映画、演劇、音楽コンサート、講演会 等

・イベント活用（市民、企業・団体に貸出し）

→コンベンション会場、パーティー会場、セミナー、会議、結婚式、
ファッションショー、各種教室 等

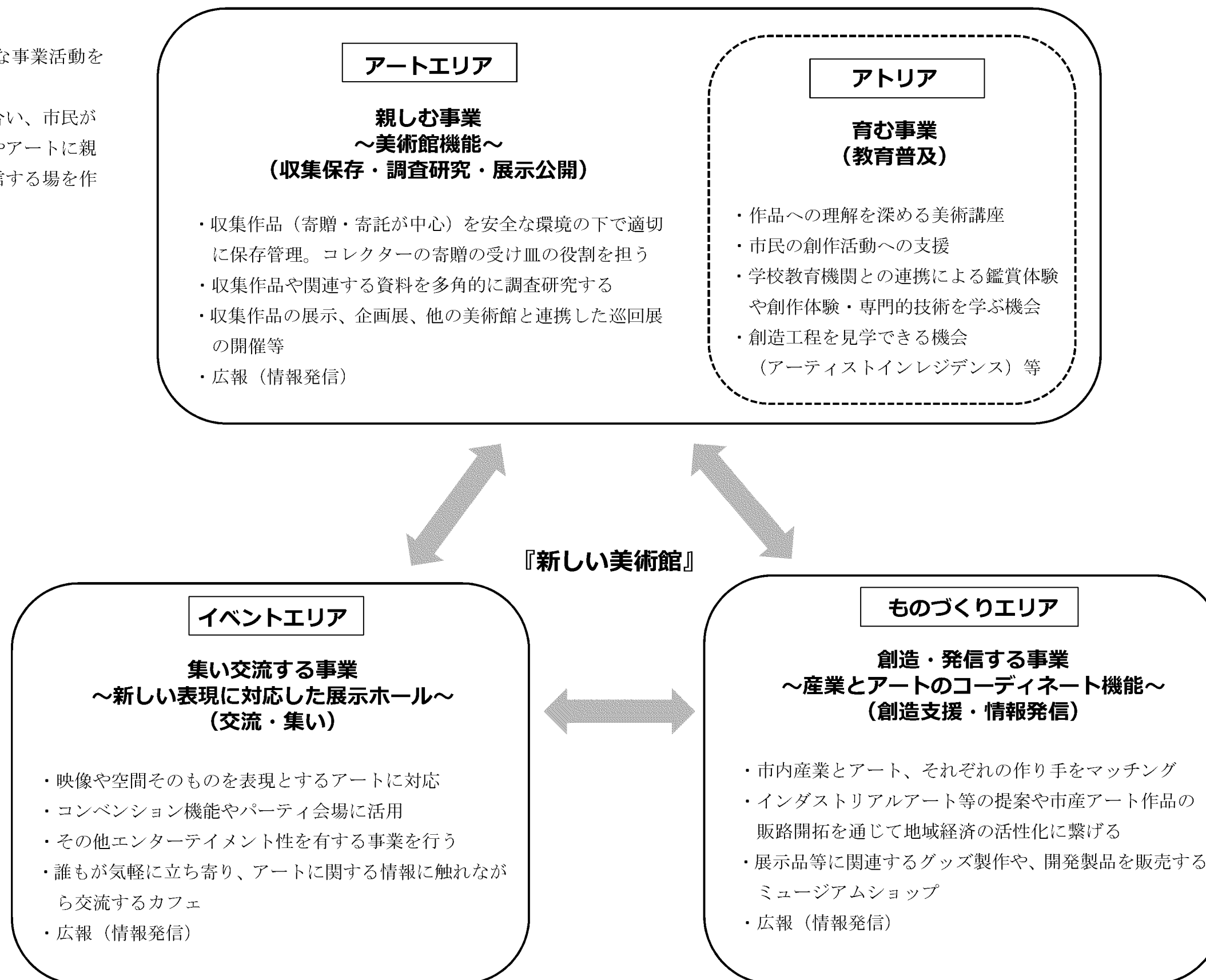
【集い】

アートカフェ・レストランを展示ホールに併設します。誰もが気軽に立ち寄ることができ、アートやものづくりの作品に囲まれ、情報に触れながら交流する機会を生み出し、市民が集う憩いの場となります。

3.三つのエリア事業概念図

三つのエリアはそれぞれ特徴的な事業活動を行います。

各エリアの事業は互いに連携し合い、市民が集い、交流し、川口のものづくりやアートに親しみ、新たな創造を生み出し、発信する場を作り出します。



4.市内の文化施設、地域との連携事業

(1) 市内の文化施設との連携

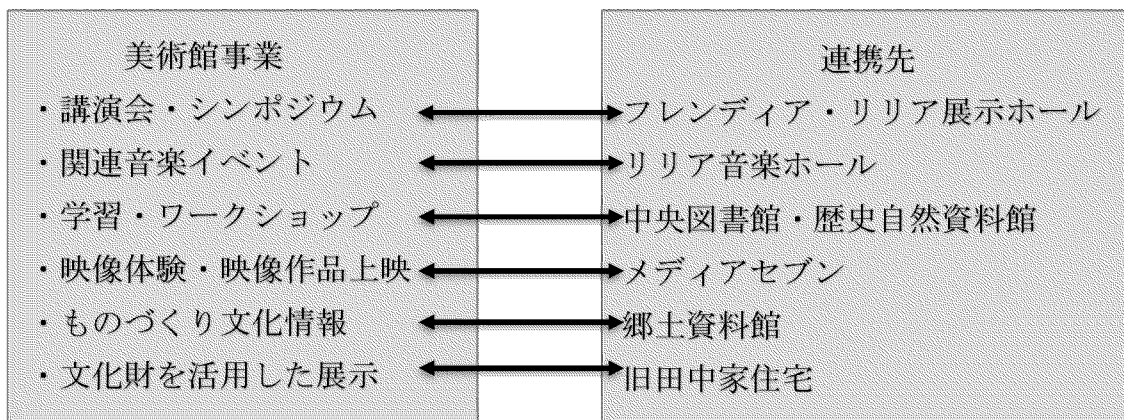
市内の様々な施設と積極的な連携を行います。文化財施設、音楽施設、映像施設等、各施設の特徴を活かして連携することで、本施設を地域単位のアートイベントの拠点として活用し、地域のものづくり文化の再発見、文化価値向上につながります。

■人材交流

施設、組織を超えたプロジェクトチームを展開します。各施設のスタッフや学芸員が積極的に交流し、ミーティング、ワークショップ、研修会などを行える環境を整え、スタッフのスキルアップにつなげます。

■機能連携～共通テーマイベント

他の施設の専門的機能と連携した共通テーマのアートイベント等を実施し、アートによる地域ネットワークの構築を試みます。下記はその一例です。



■回遊性の確保

イベント開催中は、共通チケットの発行など各施設をつなぐ回遊性のある事業の検討を行います。また、情報を一元化して発信し、統一イメージの広報活動を検討します。

(2) 市内の企業や団体・地域との連携

市内の企業や各種団体と連携、協力し、アートを活用した地域経済の活性化につながる活動を行います。地域密着のアートイベントの共同企画、コレクターや企業が所有するアート作品やものづくり作品を活用した展覧会の開催、民間委託による企画展示への参画等、多角的な連携を検討します。

(3) 市民との連携

利用者、運営スタッフ、外部有識者などの意見を幅広く取り入れ、市民のニーズに対応した柔軟な施設運営を行います。

■一般市民

多くの市民が気軽に訪れることができるような展示やイベントの企画を行います。展示ホールは市民が様々な用途に活発に利用できるよう弾力的な事業展開を検討します。また、民間の所有する施設をアートイベント会場として活用するなど、アートによるまちづくりを進めます。

■ボランティア・友の会など賛助会員

施設の活動に活発に参加し、運営に高い関心をもてる制度作りを行います。定期的な意見交換会やセミナーの開催、施設使用料の優遇、イベントの優先チケット配布等の特典を検討します。さらに幅広いスポンサー獲得の活動を行います。

■美術愛好家

愛好家には積極的に情報提供を行い、繰り返し訪れやすいよう、企画のバリエーションや展示更新のサイクルなどの工夫を検討します。

■情報発信

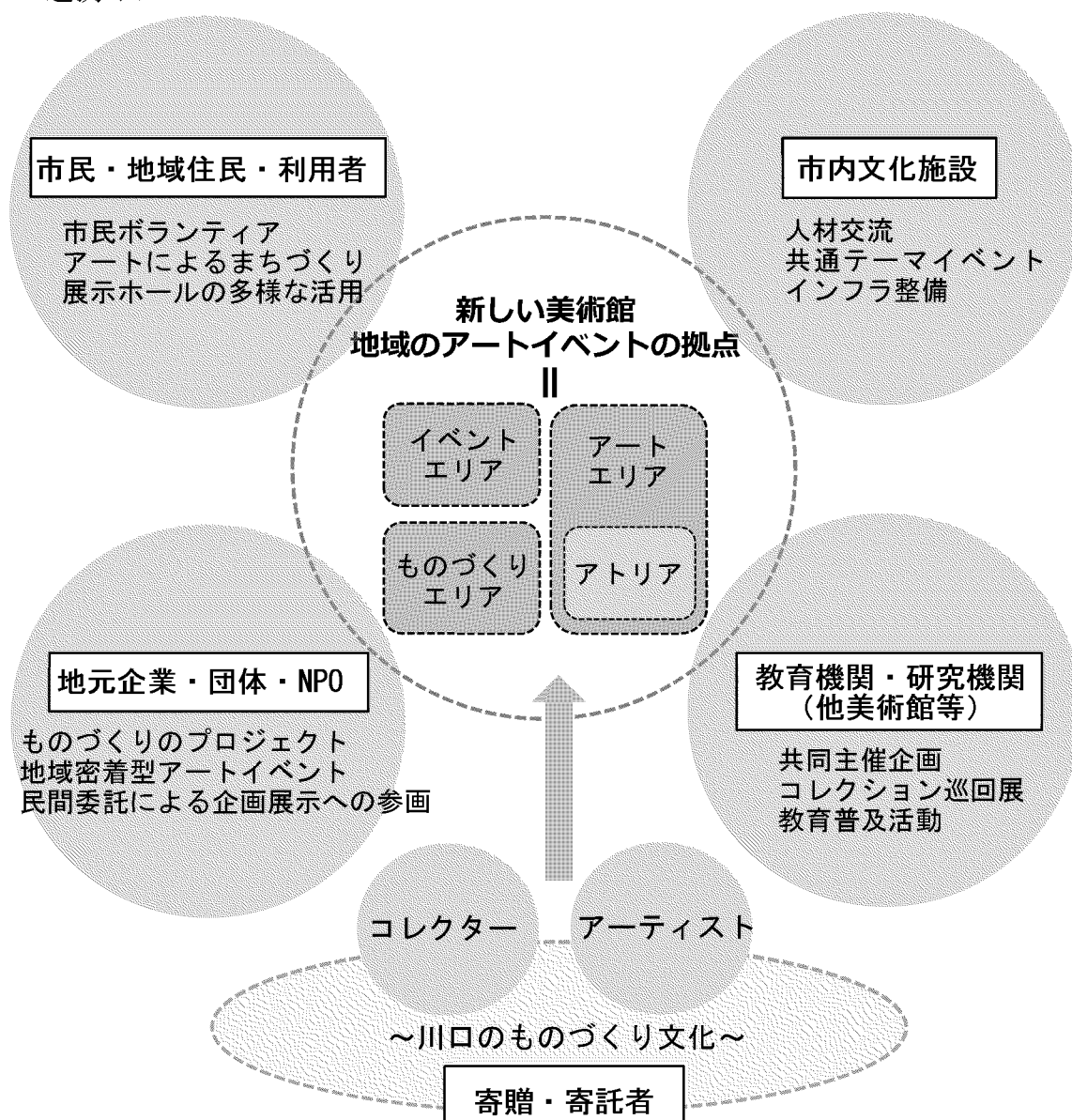
写真撮影スポットの提供など市民がSNSで情報発信しやすくすることで情報拡散を行いやすくする工夫をします。

(4) 市外の美術館や学校・教育機関との連携

市外の美術館・博物館と作品の相互貸し出しや、共同主催企画展・コレクション巡回展の実施、入場料割引制度等を検討し、広域的連携を図ります。

また、アトリアを中心に小中高校など学校教育と連携し、本施設の本格的な環境での鑑賞プログラム、美術教育を実践します。また、大学生、大学院生、様々な社会人を対象とした地域の文化に根ざした高度な学習プログラムを行います。ジャンルや専門性を越えた学生・研究者が交流でき、連携できる環境づくりを行います。

■連携イメージ



5. 広報活動

美術施設の活動を中心とした市内のアート情報の発信を、市内外に向けて、積極的に行います。パンフレット・ポスター・定期刊行物・HP・メール・SNS・パブリシティ（TV、新聞、ラジオ、雑誌）・広告宣伝・タウン誌等、多様な手法で幅広い年齢層に向けた広報を行います。また、外国人向けに多言語の情報を提供し、新たな観光拠点としての魅力を発信します。さらに、各種研究やものづくり等の地域のアート情報のデータベースを他の美術館や美術関連団体とのネットワーク連携を通じて共有し、市のアートの新たなブランドイメージの確立を目指します。

6. 開館時間・休館日

周辺施設の状況、曜日や季節、イベントや展示スケジュールなどを考慮して、開館時間を柔軟に設定できるように検討します。夜間利用を想定して、有料エリアと無料エリアの管理区分を設定します。また、休館日を少なくする工夫を行い、休館日に施設の一部を解放することも検討します。

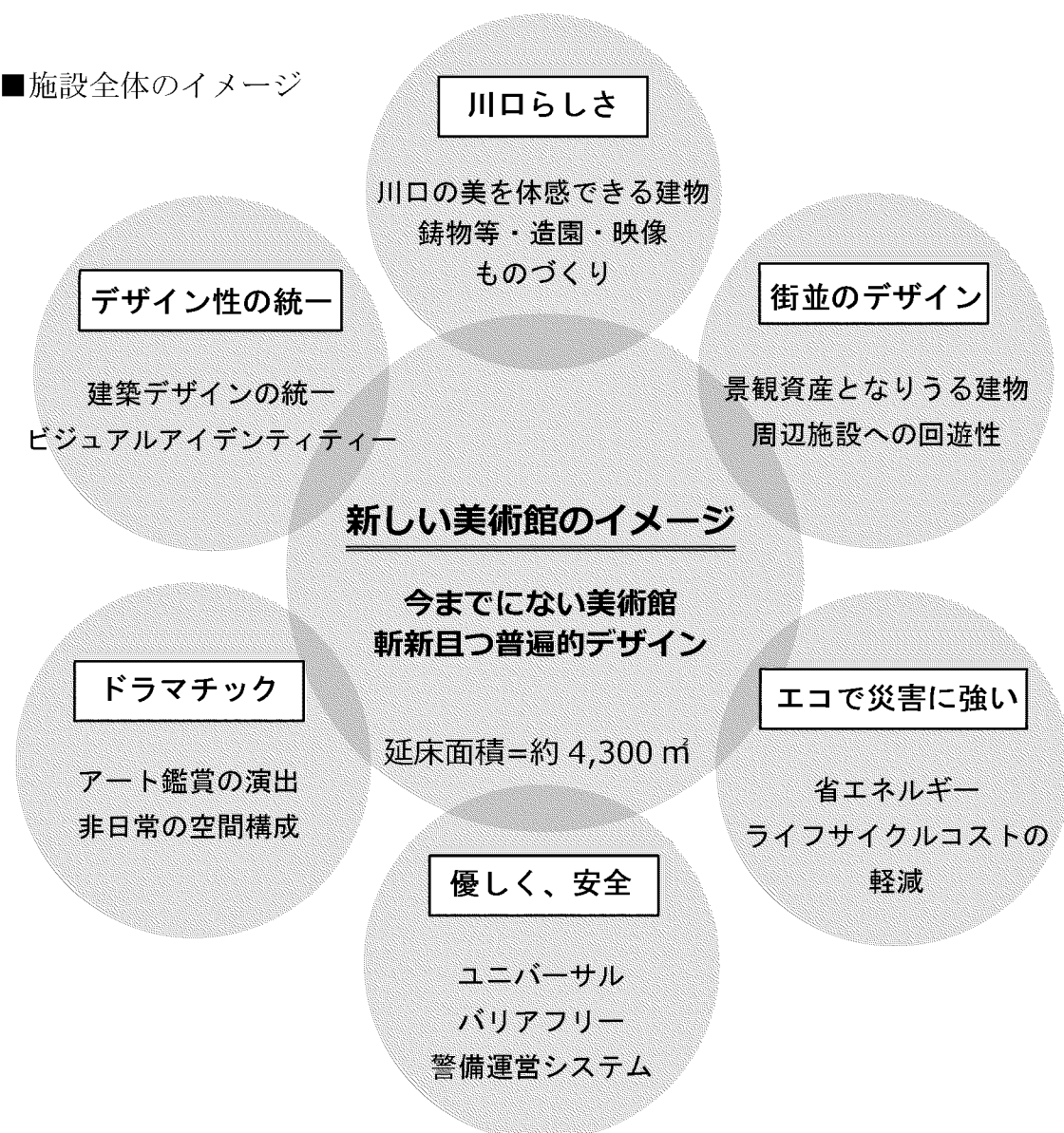
第2章 施設計画

1. 施設全体の仕様、規模

(1) 施設全体のコンセプト

本施設では将来に渡って市民に愛され、未来の子供たちにも活用されるよう、今までにない斬新で且つ普遍的なデザイン性の高い建物を検討します。下記6つのキーワードをイメージとします。施設規模は延床面積約4,300㎡程度を想定します。

■施設全体のイメージ



川口らしい建物

そこにいるだけで川口らしさ、「川口の美」を体感できる場を目指します。鑄造等の工業、映像等のものづくり技術を活用した空間デザイン、街の賑わいの演出、そして川口の歴史ある造園技術を活かした緑溢れるクリーンな建物（盆栽、植木、屋上や壁面緑化等の検討）を目指します。外部空間（庭や中庭）など自然の要素を取り入れます。

街並もデザインする建物

地域回遊性のある動線を計画します。関連施設（アトリア・旧田中家住宅等）への利便性を考慮します。街並に積極的に寄与する施設づくりを行います。周辺地域を含めた景観デザインやサイン整備を検討し、川口市の景観資産の中心となる施設を目指します。

エコで災害に強い建物

省エネルギー性能が高く、環境への影響が少なく、災害に強い建物とします。環境負荷軽減、CO₂排出削減のための様々な工夫（輻射熱空調、太陽光発電、地中熱利用等クリーンエネルギー利用、高効率のLED照明等）の検討を行います。ライフサイクルコストの軽減化等を実現し、持続可能な施設を目指します。

訪れやすくだれにも優しい安全な建物

だれもが快適に利用できるバリアフリーに配慮したユニバーサルな施設づくりを目指します。音声案内、点字案内の他、海外からの来館者に対応した多言語案内等の設備を設けます。また、開放的なファサードとし、来館者が気軽に入れる工夫を行い、市民が自然に集い交流できる建物を目指します。また警備システムを徹底し、安全な施設とします。

ドラマチックな建物

作品をより深く鑑賞するために、建物全体のストーリー性を構築します。展示動線、展示デザイン、照明計画等を工夫し、品格あるドラマチックな空間構成＝非日常の演出をします。全体を見渡せる吹き抜けも検討します。

質の高いデザインの統一性

外観から内部諸室（トイレや階段等）にいたるまでデザインの統一を行います。さらに、シンボルマーク、サイン、色彩計画、各種パンフレット、WEBサイト、名刺、ユニフォーム等を建物と統一したデザインとしてビジュアルアイデンティティを構築します。それによって美術館の活動イメージを視覚化し、デザインがメッセージとしてわかり安く伝わる工夫を行います。

(2) 施設全体の構成

延床面積は4300㎡ (約1300坪) の規模を想定します。

今後、敷地条件等の設計条件をふまえ、基本設計を通じて全体規模の決定、各エリアの詳細な面積配分等を検討していきます。また、市内の既存の施設を活用し、美術館内の効率的な面積利用を検討していきます。

■市内の既存施設の利用例

展示室 →アートギャラリー・アトリア
旧田中家住宅
(洋館・和室・茶室や庭を利用したアートイベント等の可能性) 等

収蔵庫 →既存市役所施設の改築 等

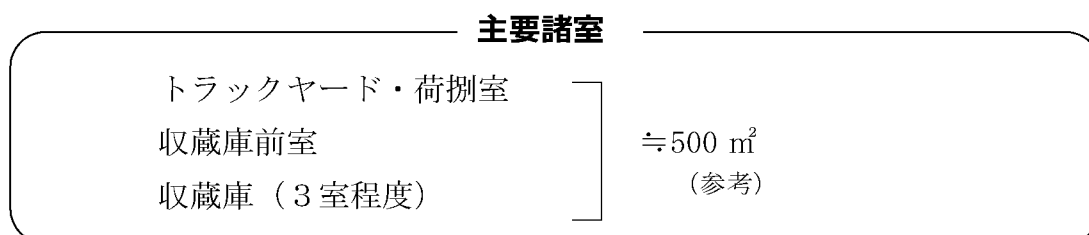
各エリアの想定規模

<u>アートエリア</u>	<u>約1750㎡</u>	(展示室 約800㎡)
<u>ものづくりエリア</u>	<u>約200㎡</u>	
<u>イベントエリア</u>	<u>約1150㎡</u>	(展示ホール 約700㎡)
<u>その他共用部</u>	<u>約1200㎡</u>	
<u>合計</u>	<u>約4300㎡</u>	

2. 各エリアの施設構成

(1) アートエリア

[収集保存]



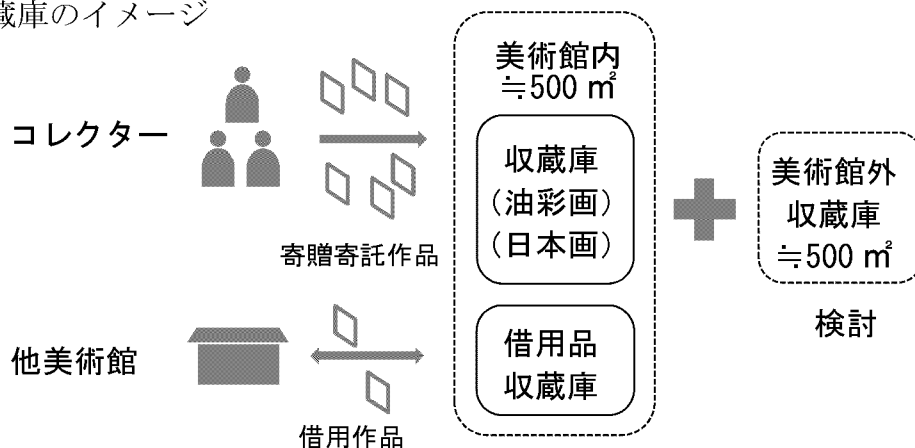
【トラックヤード、荷捌室、収蔵庫、収蔵庫前室等】

寄贈寄託作品等の安全な保存管理に必要な性能をもった諸室を整備します。変温恒湿環境に配慮した搬出入動線とします。日本画、油絵、他の美術館等からの借用資料にも対応した異なる湿度調整が可能な複数の収蔵庫、準備室等を整備します。

火災や地震、風水害に対する安全対策、監視カメラや入退場管理システムによるセキュリティ対策、恒温恒湿環境等に配慮した整備計画とします。また、省エネに配慮した空調設備、照明設備等を検討します。

収蔵庫については特に貴重な作品を本施設に保管し、今後収集する作品資料を含め、市内の他の施設内にも収蔵庫の整備を同時に検討します。

■収蔵庫のイメージ



【調査研究】

主要諸室

事務・学芸員室
会議室
職員控室・物品庫

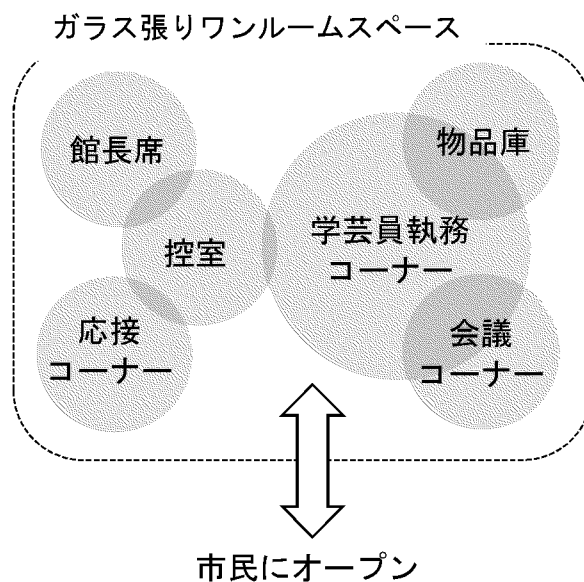
≒150 m²
(参考)

【事務・学芸員室・会議室・物品庫】

事務室・学芸員室は開放的なワンルームスペースとし、面積の利用効率を考慮します。壁面をガラス張りにするなど、市民にオープンなワークスペースとします。館長執務室も含め事務・学芸員の中で活発な議論を促します。また、物品庫には図録等の保管用に集密書架を設け、資料の蓄積を行います。

常勤の学芸員、スタッフ人員は10名程度とし、今後、運営方法をふまえて、詳細な必要居室を検討していきます

■事務・学芸員室イメージ



【展示公開】

主要諸室

展示室（プロローグゾーン・川口の部屋）	≒1100㎡ (参考)
展示準備室	
アート図書館	

【展示室】

展示室の面積は約800㎡程度を想定します。

イベントエリアの展示ホール（約700㎡）と合わせて、展示用途利用できる床面積の合計は1500㎡となります。現在、市が所有する寄贈寄託作品の主な作品は展示が可能な規模と考えられます。また、施設全体面積にしめる展示用途利用できる床面積の割合（展示室/施設全体）は34%程度です。

展示室は大きく三つのゾーンから構成されます。各ゾーンには作品に適した展示環境（照明、恒温恒湿空調設備等）を整備します。

・プロローグゾーン

展示室の導入部分に、川口の歴史や風土、美術館のなりたち、市内で活躍するアーティスト、そして寄贈寄託したコレクターを、映像等のデジタルコンテンツを活用してわかりやすく紹介するプロローグゾーンを整備します。展示動線全体のプロローグの役割を担います。

プロローグゾーンは無料とし、エントランスホールやものづくりエリアとの動線を考慮することで、「川口の美」をプレゼンテーションするスペースとなります。

・展示室ゾーン

フレキシブルな展示空間を整備します。開放的なスペースとテーマ展示が可能な小規模な展示室を組み合わせる等の構成を検討し、様々なスタイルのアートの展示に対応できるようにします。また、イベントエリアの展示ホールとの動線を考慮することで大規模な企画展の開催も可能となります。

・特別展示室=『川口の部屋』

川口のものづくりに関連した作品を常設展示し、美術館の象徴となるスペースとして特別展示室=『川口の部屋』を整備します。『川口の部屋』は、来館者動線の最も奥に配置し、落ち着いた環境で、作品を通じて川口の美を体感する場所とします。展示する作品については今後、寄託寄贈の他、新たに制作する事も含めて検討します。

【アート図書館】

アート図書館ではアート全般に関する美術専門書や他の美術施設資料・イベント情報を収集、収蔵し、広く市民に公開するための検索端末やリファレンスコーナーを整備します。

【屋外展示スペース】

屋外スペースを積極的に活用して屋外展示室等を設け、彫刻作品などの展示を行います。また建物外壁もアート作品の一部として活用することを検討します。

(2) ものづくりエリア

主要諸室

- | | |
|-------------------|---------------|
| ○ショールーム（打合せルーム併設） | ≒200㎡
(参考) |
| ○ミュージアムショップ | |
| ○ものづくりライブラリー | |

【創造支援】

【ショールーム】

ものづくりや市内産業情報を展示するプレゼンテーションルーム、地元企業や市民とものづくりのアーティストのマッチングの為に打合せルーム、専門産業コーディネーター数名が常駐する執務コーナー等から構成されるショールームを整備します。打合せルームは多目的な会議室として市民に貸し出し可能な仕様を検討します。エントランスホールやアートエリアのプロログゾーンとの動線を考慮することで、「川口の美」をプレゼンテーションするスペースとなります。

【情報発信】

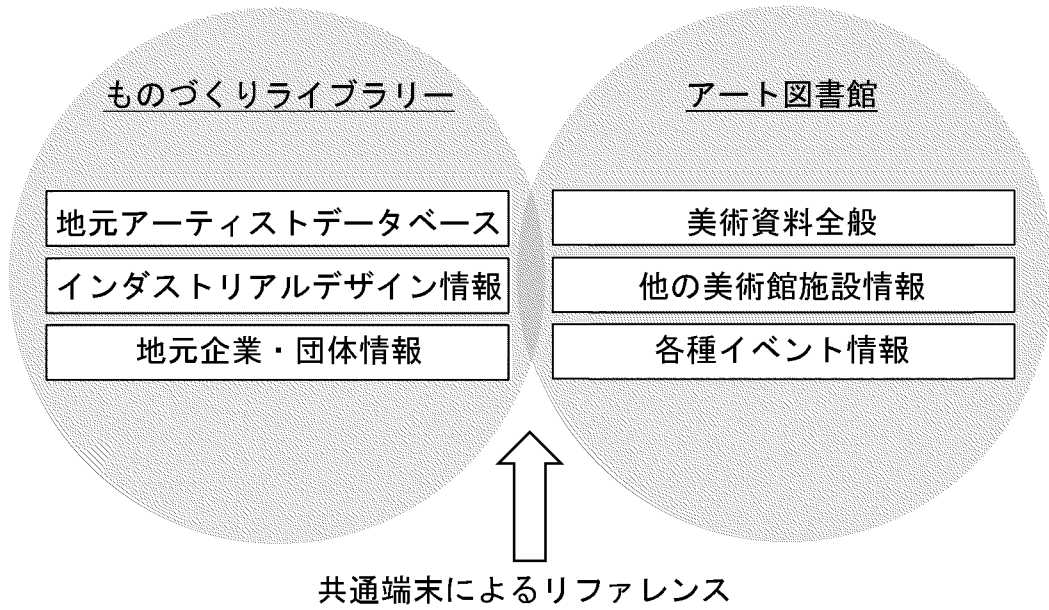
【ミュージアムショップ】

ミュージアムショップをショールームに併設します。来館者が気楽に訪れることができるようエントランスからの動線に配慮します。

【ものづくりライブラリー】

ものづくりエリアとアートエリア双方の情報データベースをボーダレスに検索、体験できるよう、アート図書館と共通端末によるリファレンススペースをもったライブラリーを整備します。アート図書館との動線に配慮します。

■ものづくりライブラリーとアート図書館の関係



(3) イベントエリア

主要諸室

○展示ホール	≒700m ²	}	≒1150m ² (参考)
○バックヤード			
○アートカフェ・レストラン・厨房	≒150m ²		

[交流]

【展示ホール】

700m²程度の規模の展示ホールを整備します。ホールの形状や付帯設備、利用用途などにもよりますが300～500名の利用が可能です。天井高さは7.0m以上が望ましいと考えます。

様々な用途への活用を考慮し、平土間（通常時は舞台がなく、客席も固定ではない）とします。舞台の昇降設備や、備品類の収納スペースなどの付帯設備の仕様は今後設計を進め、詳細な検討を行っていきます。

展示環境（照明、恒温恒湿空調設備等）、及び音響設備を整備します。また、ホールを分割して利用できる仕様を検討します。

アートエリアの展示室と連携をとりやすい配置とし、施設全体を一体活用した展覧会が実施できるよう配慮します。イベント時のホワイエとしてエントランスホールを活用できるよう動線に配慮し、面積の利用効率を考慮します。

[集い]

【アートカフェ・レストラン】

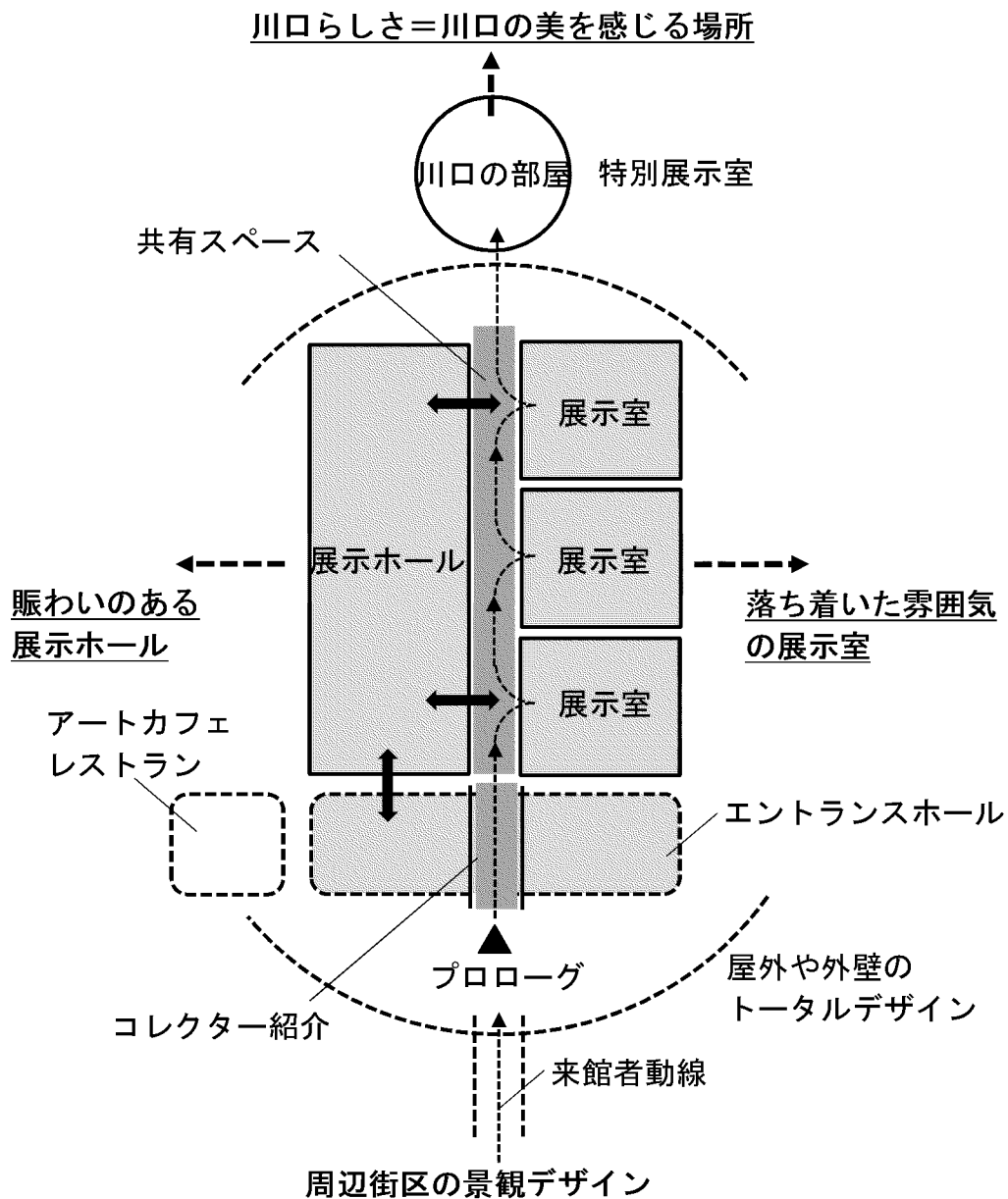
150m²程度のアートカフェ・レストランを整備します。

誰もが気軽に立ち寄ることができ、アートやものづくりの作品に囲まれ、情報に触れながら交流する環境を整備します。来館者利用だけでなく、街並に開放され、多目的な利用を想定した配置とします。また、展示ホールで飲食を伴う利用がある時はサブ・ケータリングのスペースとして活用できるよう、展示ホールとの動線に配慮します。客席、厨房設備の詳細な規模、仕様に関しては今後検討していきます。

3. 展示動線シーケンス

来館者は周辺街区の景観デザイン、エントランス、プロローグを経て、展示室、展示ホール。そして川口の部屋へと至る統一したデザインの空間のシーケンスを体験します。それぞれの空間は特徴ある雰囲気を持ち、川口の美を体感するドラマチックな構成を構築します。

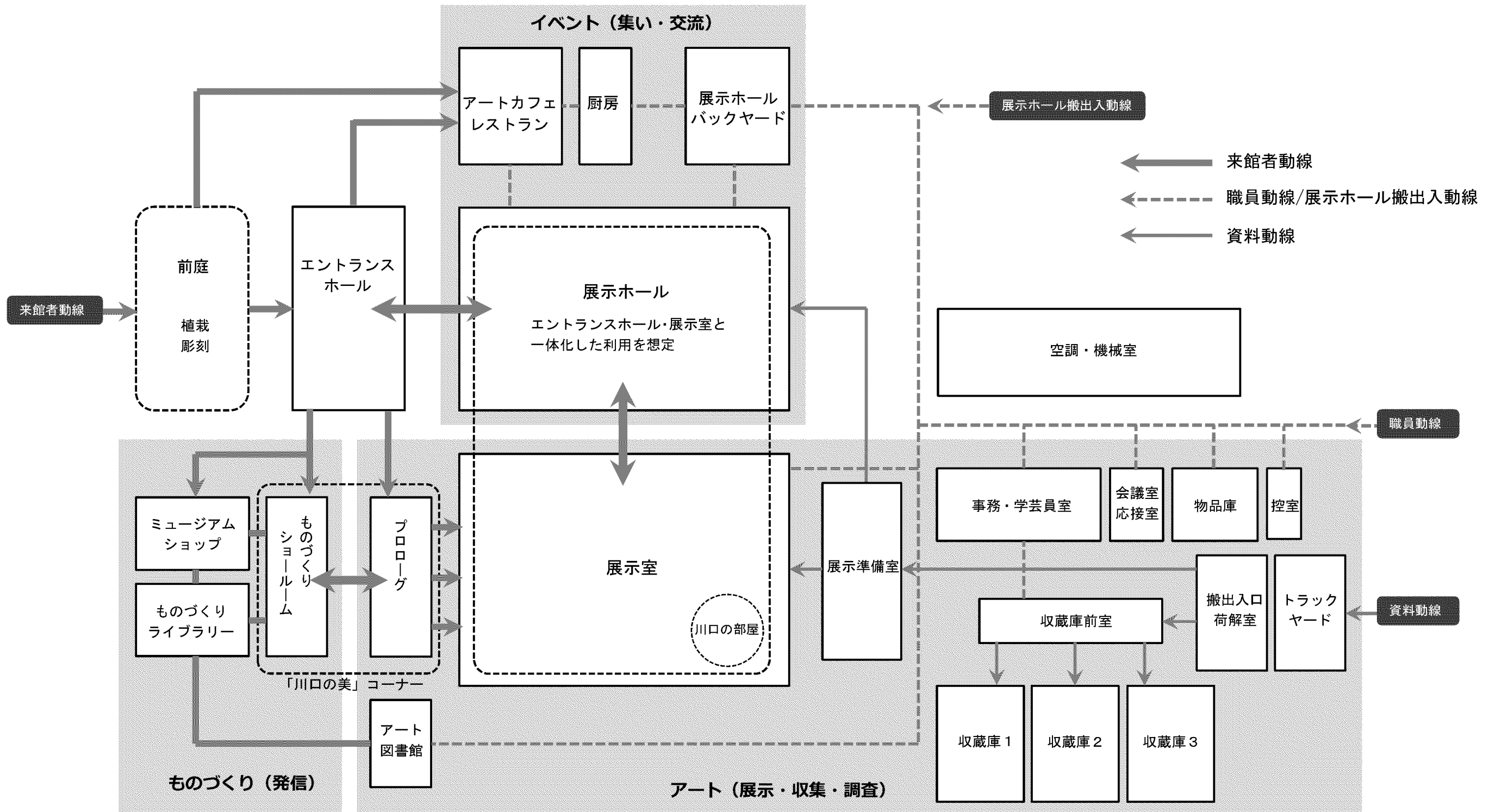
■ 展示動線の概念図（例）



4.動線計画

主要な動線として、来館者動線、職員動線、資料動線、展示ホール搬出入動線があります。
効率的な動線計画を検討します。

■機能構成・動線計画図（案）



5.必要諸室面積一覧

エリア	公開 非公開	無料 有料	活動	室名	用途	必要機能	規模 (参考)
アート	非公開		収蔵 保存	トラックヤード	作品の搬出入	搬入用トラック（4tを基準）を収納。排気ガス処理の換気施設を設け、外気の流入に注意（シャッターの設置等）。虫菌害を防ぐため他の搬出入口（飲食物・ゴミ等）とは区画する。	約500㎡
				荷捌場/荷解場	作品や資料の開梱・梱包を行う	トラックヤードからエレベーターに至る動線に配慮。十分な広さを確保。	
				収蔵庫前室	収蔵庫に搬入する資料の点検 温湿度調整室	収蔵庫と同レベルの恒温恒湿空調機能、消火機能、収蔵庫扉を設ける。 資料の撮影。	
				収蔵庫	収蔵資料・寄託資料の保管	洋画・日本画・借用品等の収蔵。恒温恒湿空調機能、消火機能、収蔵棚を設ける。	
	公開	無料	調査 研究	物品庫	事務機能のための倉庫	集密書架を検討。	約150㎡
				職員控室		職員・監視員の休憩室・控室（更衣室）・給湯室。	
				事務・学芸員室	事務職員・学芸員の執務室	開放的なスペースとし、効率的な面積利用率を考慮。 館長の執務室も含む。	
		有料	展示 公開	会議コーナー	職員のミーティングスペース	応接室の機能を備える。	約1100㎡
				プロローグ	川口の「美」の紹介	川口の歴史や風土、美術館の成り立ち、アーティスト、コレクターの紹介。 エントランス、ものづくりエリアとの動線に配慮。	
				展示室	所蔵資料と借用資料の展示公開 (800㎡程度)	様々な作品、展示スタイルに対応できるよう十分な天井高、床強度を確保。日本画資料には展示ケースを設ける。 恒温恒湿空調機能、消火機能を設ける。	
				川口の部屋	特別展示室	川口のものづくりに関連した作品の常設展示。 恒温恒湿空調機能、消火機能を設ける。	
				展示準備室	展示準備の作業	展示のための什器、備品の保管。 展示室との動線に配慮。	
				アート図書館	美術専門書・情報誌の収集公開	書架・リファレンスコーナー・閲覧机。 ものづくりのライブラリーとの動線に配慮。	
				ものづくり	無料	創造 支援	
情報 発信	ミュージアムショップ	ミュージアムショップ	オリジナルグッズ等の販売等を行うミュージアムショップ。展示什器。 エントランスホールの動線に配慮。				
ものづくりライブラリー	情報収集・発信のライブラリー	リファレンスコーナー。 アート図書館との動線に配慮。					
イベント	非公開	有料/無料	交流	展示ホール	多目的利用可能なホール (700㎡程度)	恒温恒湿空調機能、消火機能、音響設備等コンベンション機能を備える。分割利用可能。平土間（天井高7メートル以上）。 展示室、エントランスホール、アートカフェ・レストランとの動線に配慮。	約1000㎡
				バックヤード	展示ホールの倉庫・控室	椅子、テーブル等展示ホール備品を収納。関係者控室。	
	公開	無料	集い	アートカフェ レストラン		アート作品、ものづくり作品の展示。周囲の眺望を考慮し配置を検討。 外部からの動線に配慮。	約150㎡
共用	公開	無料		エントランスホール		館内案内・発券カウンター・ロビー・ロッカー等を設ける。 開放的に作り来訪者の動線を促す。	約200㎡
				トイレ・授乳室 救護室		多目的トイレ（車いす対応）を含む。	約1000㎡
	非公開			廊下・エレベーター 機械室		搬出入用エレベーター。 バリアフリーに対応。	

必要床面積合計 約4300㎡

第3章 建設用地の検討

1.建設用地及び施設形態の検討

・建設用地の検討

建設用地については、川口駅周辺の市所有地を活用する方針を中心に検討します。高い集客性が見込まれる地域であり、用地活用の手法としては市所有地を種地とした再開発事業等が考えられます。今後は川口駅周辺で美術館建設に適した用地の検討を進め、様々な社会経済動向をふまえて、よりスピーディーな建設が可能となる候補地の選定を弾力的に進めることが望ましいと考えます。

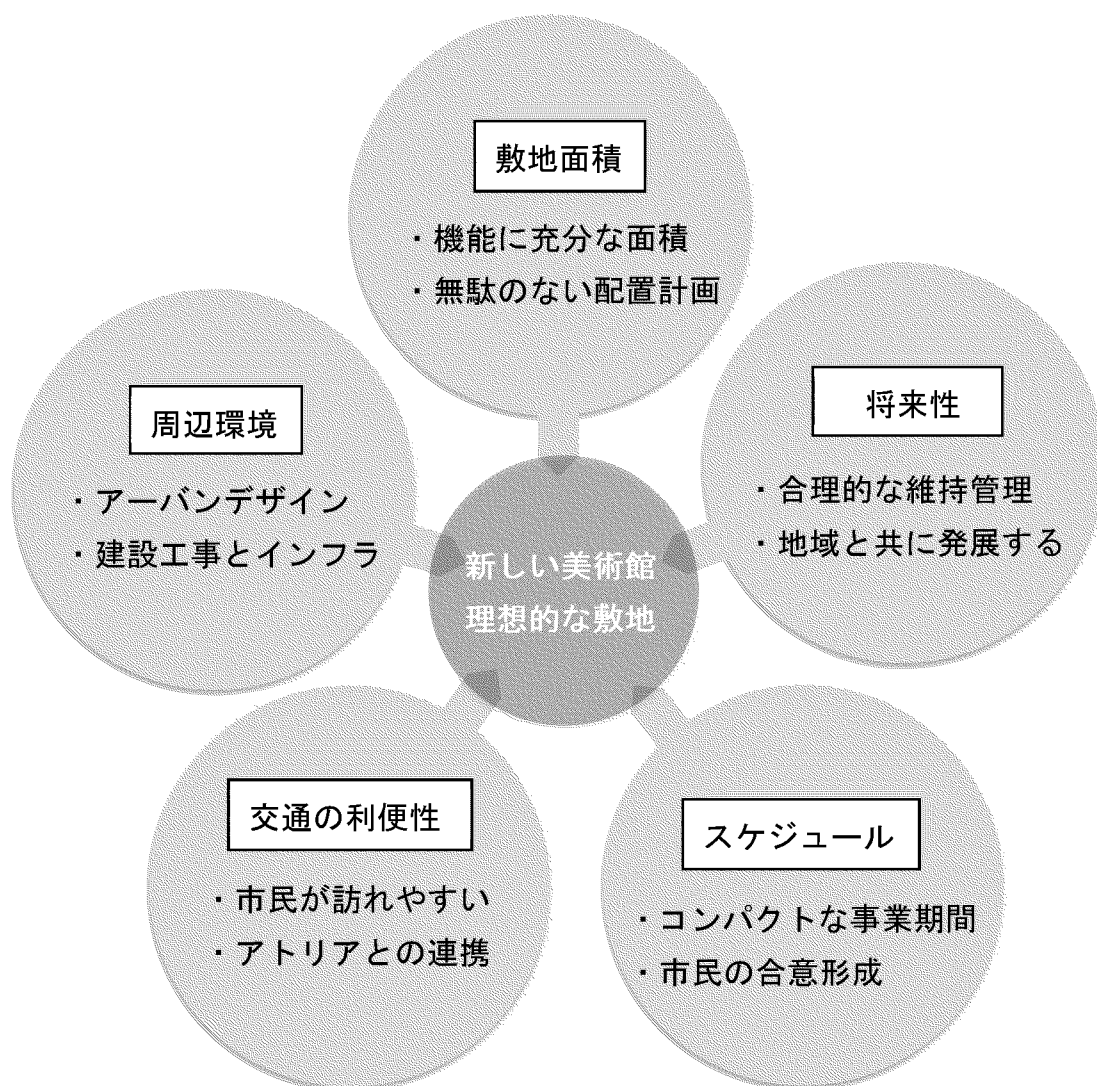
・施設形態の検討

施設形態としては、一棟で建設する単体施設の場合と、複合施設の一部の場合、既存建物のリノベーション等が考えられます。類似施設を検討すると、近年、複合施設内部に立地する美術館が増えていることがわかります。建設費を比較すると、単体施設の場合は、躯体工事や外構工事などの工事項目が複合施設に比べると割高になりますが、建物や外構のイメージを統一のデザインでまとめることができるなどの利点があります。それぞれのメリット・デメリットを考慮し、施設形態の検討を進めます。

2.建設用地

建設用地について、様々な要素を総合的に検討します。川口市のまちづくりにとって最適な場所であり、市民にとっても川口の「顔」となる理想的な用地であることが望ましいです。川口駅周辺の市所有地の中から、今後、下記の五つの要素を中心にバランスのとれた用地を検討します

■用地に必要な要素イメージ



敷地面積

必要床面積を確保するのに充分で無駄の無い面積の用地とします。また、搬入ルート、駐車場等の外構デザインが合理的に計画できる必要があります。なお、変形敷地の場合、展示ホール（700 m²）などの内部空間に制約が生じる可能性があります。考慮が必要です。

周辺環境

本施設と周辺環境との繋がりを重視します。周辺の街並みが、美術施設と調和したアーバンデザインへの展開を可能とすることが望ましいと考えます。周囲の環境を活かし、本施設が地域に根ざすことが大切です。また、建設工事が容易に行え、建物のインフラが整備しやすい事も重要です。

利便性

多くの市民が利用するためには、交通の利便性が高いことが大切です。また、周辺施設との回遊性に配慮した動線計画・交通網の検討が必要です。アートギャラリー・アトリアとの連携が容易な立地が望ましいと考えます。また周辺施設が利用可能な駐車場整備の可能性についても検討します。

スケジュール

用地の状況によっては着工までに期間が必要となります。用途地域変更等、行政手続きを伴う場合は、その期間の他、市民の合意形成の期間を要する可能性があります。また再開発の手法を活用する場合は、権利者との調整を速やかに行えることが必要です。コンパクトなスケジュールの組み立てを検討します。

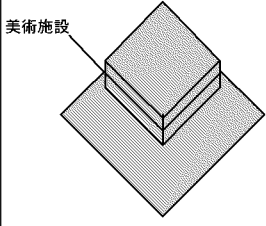
将来性

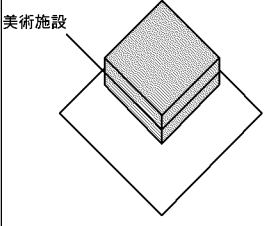
長く市民に親しまれ、利用され続けていくためには、長期的な運営が持続可能で、周囲の環境とともに発展していく用地が望ましいと考えます。建設後の建物の管理、ランニングコスト低減や維持保全工事等の合理的な計画を考慮した敷地とします。また、美術館が積極的に耐震等、防災安全対策に関して、長期的に周辺環境に寄与できることを考慮します。

3.施設形態

施設形態に関しては、建設適地の選定と合わせて検討することが必要です。また、新たに用地を取得する場合は利便性の高い川口駅前などは用地取得費用が高額になると想定されることから、市所有地を活用することが望ましいと考えます。

■施設形態の種類と特徴

A 案 	建 物	新たに用地を取得し一棟建
	建 設 費	B 案・C 案より高額 【用地取得費用が必要】
	維持費用	C 案より高額
	計画期間	用地取得期間が必要
	階 数	2～4 階建
	備 考	建物と敷地で統一したデザインをつくりやすい。

B 案 	建 物	市所有地に一棟建
	建 設 費	C 案より高額
	維持費用	C 案より高額
	計画期間	比較的短期間で着工可能
	階 数	2～4 階建
	備 考	建物と敷地で統一したデザインをつくりやすい。

<p>C 案</p>	建 物	市所有地を含む再開発の一部に建設
	建 設 費	A 案・B 案より安価
	維持費用	A 案・B 案より安価
	計画期間	権利者の調整期間が必要
	階 数	2～4 階建
	備 考	複合施設の利点を活かし、多くの集客が見込める分棟、低層階、高層階等の配置バリエーションが考えられる。分棟の場合、階高、各種設備の設計の自由度が高い他、専用エントランスの設置が可能などの長所がある。再開発の状況によって最も有利な配置計画を行う必要がある。

<p>参考</p>	建 物	既存建物の一部を取得しリノベーション
	建 設 費	既存施設の仕様による 【建物取得費用が必要】
	維持費用	既存施設の仕様による
	計画期間	権利者の調整期間後、比較的短期間で着工可能
	階 数	2～4 階建
	備 考	美術施設用途に適した既存建物を市が所有しておらず、新たな建物の取得手続きが必要。 既存建物の意匠、構造、設備等の仕様による設計上の制約の検討が必要。

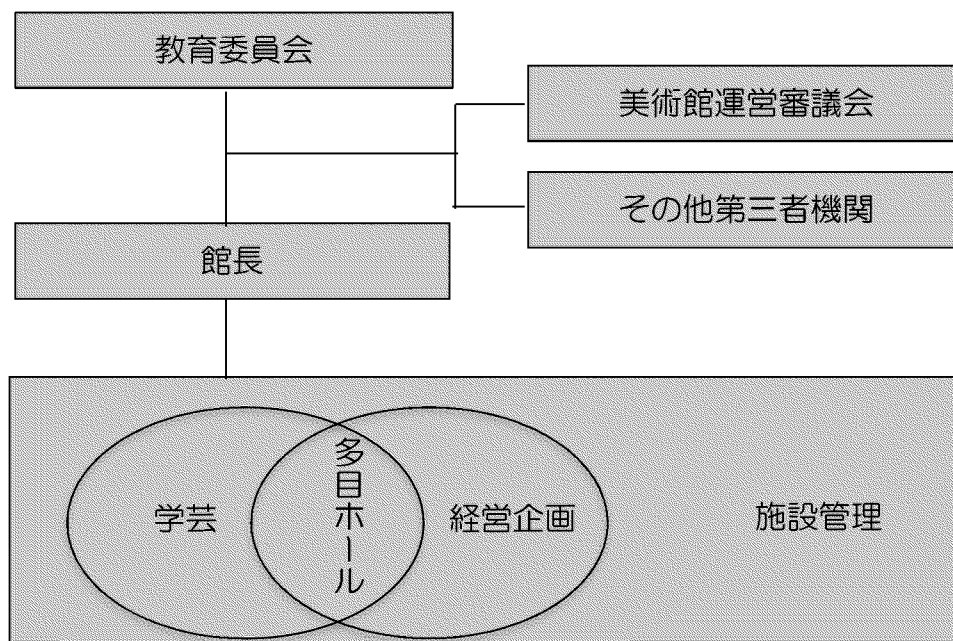
第4章 管理運営

1. 管理運営体制

学芸部門の他に、経済効果を生み出す工夫を取り入れる経営企画部門の設置が望まれます。経営企画部門では、展示ホールの活用やものづくりのプロジェクト等を経営的な視点を含めて管理運営、情報発信を行います。学芸部門では、収集、保存、調査研究活動等を行います。展示企画に関しては、学芸部門と経営企画部門がバランスをとりながら、アートエリア、イベントエリアを連携して多角的かつ斬新な視点で事業を展開していきます。

また、美術館の運営等について調査・審議するために、附属機関として美術館運営審議会を教育委員会の元に設置します。さらに、寄贈寄託作品の選考、事業評価を行う第三者機関等を設置します。

■体制図（案）



2.各部門に必要な人材

各部門の運営に必要と想定される業務内容、人材は下記のように検討します。

【館長】 【川口市特別職として任期付採用・常勤職】

運営を円滑に進めるため、各部門の業務を掌握し統括する役割をします。官民協力のもと、他の市営施設との連携を含めて多角的な運営を行います。専門的知識と民間の経営センスをもち、マーケティングに長けた広報能力を持った人材を抜擢します。

【学芸部門】 【直営の場合新たに採用】

■ 調査・研究・ライブラリー/収集・保管

寄贈寄託作品を中心に、寄贈者や寄贈作品が制作された時代背景などの調査・研究/収集・保管を行い、成果を新たな展示企画提案や運営に反映させます。スタッフには川口に根ざした幅広いアートの専門知識と企画力、コミュニケーション能力が求められます。

■ 教育普及・ワークショップ

アトリアを中心に教育普及、ワークショップ等を行います。市民と美術施設をつなぐコーディネーターの役割を担います。教育機関、ボランティア、地元クリエイター等と連携し、地域にアートの魅力を広げていきます。実践的な行動力をもつ人材が必要です。

【経営企画部門】 【直営の場合新たに採用】

■ 産業とアートのコーディネート機能

(ものづくりプロジェクト・産業コーディネーター・ミュージアムグッズ)
地元アーティストや匠のリサーチとデータベース化、そして企業や団体、様々な市民とをマッチングし、新たなものづくりビジネスにつなげる役割を担います。地域のマーケティングに長け、クリエイティブな技術支援を行えるコーディネーターが必要です。

■ 展示ホール、アートカフェ・レストラン

事業目標をもって展示ホールの経営戦略を企画します。市民への施設貸し出しや、主催イベント、展覧会企画を通じて、経済効果のある収益事業を行います。来館者や多くの市民が利用できるアートカフェ・レストランの管理も行ないます。経営力のある経営企画担当者を配します。

■ 情報発信

様々な媒体の広報活動、メディア戦略、広告宣伝、HP制作運用等のPR業務を行います。美術館の活動だけでなく、市内のアート活動に関する情報を発信します。

【管理部門】

受付等来館者対応、発券業務、監視業務、施設貸出、事務担当、施設維持管理などを行います。利用者の利便性向上だけでなく、長期的視点で安定的で適切な建物の維持管理、保守管理の体制を確保します。

3. 検討項目

管理運営に関する主な検討項目は以下の通りです。

美術施設への信頼性の充足

コレクションは、寄贈・寄託作品が中心です。したがって、美術館が、信頼される寄贈・寄託先であることが求められます。地域・市民にとって貴重な資産を、長期的に適切な管理のもとで保管するために、市が主体となって、安定的な運営を持続します。

研究・学芸部門の持続性

学芸部門が持続的な研究を行うことができ、貴重な資料が蓄積できる環境作りが必要です。専門性の高い優秀な学芸員の獲得、育成のための環境（処遇やネットワーク）を整えることが大切です。また、市内経済の現状とリンクした研究が求められます。学術論文や出版物等の著作権の権利調整に関しても検討が必要です。

市内の市営施設・学校との連携

他の市営施設や、市内学校との連携を行い、本施設が中心となった地域単位のアートイベント創出、包括的な事業展開を図ります。

地元のものづくりアーティスト・団体との連携

市内の団体や企業のネットワークを最大限活用し、ものづくりアーティストと産業のマッチングによる地域に密着した経済効果を生みだします。ものづくりの現場のノウハウを行政が蓄積するシステムを市と民間が協力して構築していきます。

第5章 今後のスケジュール

